令和２年度　三春町総合教育会議会議録

１　招 集 日 時　　令和３年３月１５日（月）　午後１時３０分

２　招 集 場 所　　三春交流館「まほら」小ホール

３　出　　席　　者　　町長　坂本浩之、教育長　添田直彦、
教育長職務代理者　渡辺勉、教育委員　宗像俊樹、
教育委員　宮田美穂、教育委員　太田文枝

４　事　　務　　局　　副町長　佐藤知憲、総務課長　伊藤朗、教育次長兼教育課長　本間徹、
生涯学習課長　藤井康、歴史民俗資料館長　平田禎文、
町民図書館長　渡辺貞子、児童生活センター所長　大内江利子、
総務課庶務グループ長　今泉喜徳、教育課学校教育グループ長　大内佳代子、
教育課主幹兼指導主事　久保知之、教育課主任主査　小野寺百絵

５　傍　　聴　　者　　なし

６　開　　会　　午後１時３０分

７　閉　　会　　午後３時５分

８　会議の概要

（１）　開会

（２）　町長あいさつ

（３）　協議事項

・三春町教育大綱の策定について

（４）　意見交換

（５）　閉会

＜町長＞

三春町教育大綱の策定について、協議したいと思います。まず、第１章について、ご意見、ご質問等ございますか。

＜渡辺委員＞

この教育大綱で三春町の教育方針の理念が示されて、この教育理念に基づいて教育されることになると思うが、凄まじい技術革新の時代で、どういった先進的な教育が実践されていくかという視点で調べたのだが、スタンフォード大学オンラインハイスクール校長の著書によると、反転授業により、より深い授業ができ、通常の授業より学習の定着率が５％以上とのことである。また、ソーシャル・エモーショナル等、最新の技術、脳科学や心理学を取り入れて、個人個人のカリキュラムで個々の能力を伸ばす教育をしている。これが教育のトレンドになってきている。こういった方向性で教育の進め方を探求していくのが大事だと思う。

＜町長＞

今の話を伺ってなにかありますか。

＜教育長＞

スタンフォードが考えている最先端の学びというものは、一人一人を伸ばすために一人一人に最適化された学びをさせつつ、協同的な視点で学びあうことで、一人一人が育ち、集団も育つという考え方のもとに記された著書だと読ませていただいた。

第１章で基本理念では、町民全体のこととして表現したが、子どもたちにとっては、一人一人の能力を伸ばすには、一人一人が頑張ればいいのではなく、友達同士で様々な形で考えあわせ、支えあいをもって伸ばしていくことである。集団が集団として機能する中で一人一人が育っていくということに関しては、かなり共通する部分がある。

いま一番必要だと考えているのは、ヴィゴツキーという心理学者の発達の最近接領域である。子どもたちが頑張って勉強しても届くところの限界があり、先生たちといっしょに勉強することで、未開の領域にさらに一歩進んでいくという考え方なのだが、ただ大人から子どもへの伝承ではなく、子どもたち同士の学びあいによって、例えばＡさんからＢさんが学ぶことにより、Ａさんの能力がＢさんによってさらに深められていくということである。学びの最近接領域というのだが、これを踏まえているので、渡辺委員がお話しされたことは、まさにそのことなのだと思う。その部分は、「学び、つながり、未来を拓く」という大事な要素の中で活かされるべく盛り込んだつもりである。

＜渡辺委員＞

脳科学と精神の内容を取り込みながら盛り込んでいっているのは、すばらしい。安心である。

＜町長＞

大事に育てた子どもたちが社会に出ていく。ここ数年だが、町職員の採用試験で見てみると一人一人はいい子なのだが、画一的な答えしかしない。採用試験に受かることが目標となっており、公務員になって何をしたいのかという肝心な部分がない。社会に出たときに何がしたいのか。画一的で規格から外れた人はあまりいない。話題にふさわしいかは別として、大事に育てた子どもたちが社会に出ていく最初のゲートとして対峙しているので、こんなことを感じながらいまの話しを聞かせていただいた。

＜渡辺委員＞

別の本では、ハイテクハイというアメリカの学校について書かれている。企業が求める人材が入ってこないので、企業が要望して学校を作った。４か月かけてクラスで課題を解決していくのだが、クラスの中で役割を決めて、その中で自分の本来の能力がわかるというものである。社会に出て能力を発揮するような教育をされている。

＜町長＞

第２章と第３章については、グループごとにご質問・ご意見等をいただきたいと思います。まずは、学校教育グループについて、お願いします。

＜太田委員＞

夢をささえる確かな学力の育成について、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改革とあるが、自分一人で学ぶのではなく、友達と学んだり、先生と学んだり、地域の人と学ぶというコミュニケーション力を使いながら学習を積み上げていくというような構想が、「深い学びを実現する」あたりに入っているのだと思う。今までは画一的な授業が多かったのだが、学びあいをするということを、しっかり三春の教育に取り入れて進めていくという意図を感じる。三春のいいところは、地域のネットワークである。コミュニティ、学校運営協議会などを取り入れながら、子どもたちを育てていくという組織が素晴らしいと思うので、新しいものと今までのものと土台をしっかりと加味した素晴らしい推進計画だと思っている。

＜町長＞

太田委員のお話しを聞いて事務局としてコメントがあればお願いします。

＜次長＞

我々が進めようと思っている教育の内容について、ご理解いただきありがとうございます。子どもに寄り添いながらこういった教育が実現できるよう尽力していきたい。

＜宗像委員＞

電子黒板の設置や児童生徒全員にタブレットが配布になったが、心配なのは児童生徒、先生がどこまで使いこなせるかということである。マニュアル通りではなく、面白いことがたくさ

んできると思うので、先生方には考えて進めていってほしい。タブレットを使ったことがない子どもも多くいると思うので、いろいろな可能性があると思う。

＜次長＞

現在、タブレットの配布が終了し、徐々に使い始めている。当初は学校でどう使えるか心配していたが、実際に配ってみると先生同士で活用方法について真剣に考えており、活用については、現場に任せて大丈夫だと思っているところである。

＜宮田委員＞

ここ数か月、中妻小の理科の授業を手伝っているが、子どもたちはタブレットに慣れており、柔軟に使いこなせている印象を受けた。電子黒板も操作が簡単で驚いた。危惧していたよりは、使いこなして活用していけるのではないかと安心した。子どもたちは失敗を恐れず、とにかくどんどんやってみる。新しい時代の子どもたちである。いままでの教育の良さは残したまま、これからの時代に対応していかなければと思うが、自分が思っていたよりも子どもたちのほうが進んでいるところがあると感じた。

＜町長＞

次に、教育総務グループについてご質問・ご意見等お願いします。

＜太田委員＞

一人一台のタブレット配布により、ランドセルはタブレットが入るものが売れ筋だそうだ。世の中では子どもの学習にタブレットは必須のものとなっている。GIGA スクール構想による ICT の環境整備と利活用について、子どもたちの学習に必要な環境整備だが、三春町では昨年から対応し教室で使える環境ができている。あとは、家庭でも使えるように整備してほしい。コロナ禍になって、オンラインや遠隔授業が当たり前になっている。また、先生たちを支援するサポーターの配置もしながら、力強く支援して進めていってほしい。ここに明記され、やっていくという位置づけにあることが、うれしいことだと思っている。

＜次長＞

来年度の当初予算において、WIFI がない家庭へのモバイルルータの貸出しや、学校へのサポートに関する事業について予算化している。

＜町長＞

他にありませんか。

＜渡辺委員＞

校舎等照明施設の LED 化について、12.5%から 100%を目指すということだが。

＜次長＞

町全体で整備していく計画がある。この数値は体育館を含めた目標になる。財政的な問題も

あるが、順次進めていきたい。

＜町長＞

次に生涯学習グループについてご質問・ご意見等お願いします。

＜宮田委員＞

学びへの支援、学びの機会の提供、多様化複雑化した地域課題や生活課題への対応が、重要になってくると思う。生涯学習は、子どもから高齢者までを対象にしており、子どもも含まれている。地域の課題のひとつとして、学校に行けない子どもたちがいるという事実がある。家庭でも心の居場所がない。生涯学習の領域の中で、子どもたちの居場所を作れないか。居場所を見つけるための支援ができないか。家、職場、学校以外の居心地のいい場所、サードプレイスが必要であると言われている。ボランティア活動等に従事して、夢中になる時間を過ごして、ありがとうと言われたり、植えた花がきれいに根付いたりして、心が落ち着いたときに、こういう場所を確保するためには一般教養が必要だという考えが子ども自身に戻るのでないか。

＜町長＞

子どもの居場所作り、サードプレイスということであるが、生涯学習グループのところでいいのかということがあると思うがどうか。

＜教育長＞

小中学校の不登校の児童生徒について、４月から学習をサポートするような居場所づくりをしたいと考えている。教育委員会の適応指導教室なので、学校に行かなくても適応指導教室に通うことができれば、出席日数にカウントできるというシステムから始めていきたい。不登校には様々な理由があり、一人一人に対して何ができるか、具体化していくことからスタートしていければと思っている。居場所づくりは、学校教育も生涯学習も一体的に進める。

＜宮田委員＞

学校現場に入ると、ちょっとした反応や、つぶやき、表情に光るものがある子がいるが、その良さが成績に出ないで埋もれていってしまう。ピックアップして、話を聞かせてほしいとか言ってあげると、自分で自分の力に気づいて伸びるのではないか。子ども会議をできないかと思った。地域の課題を子どもにも考えてもらう。小学校の高学年から高校生たちで、会議をやってみたらおもしろいのではないか。

＜次長＞

福島大学と三春町が連携協定を結ぶこととして、先日、福島大学から田村高校を中心とした起業家育成のための講座を開催したいとの申し出があった。その中で中高と連携した取り組みが次年度に向けてできないか協議を始めたところである。講座等を実施していく中で、同じような効果を出していけるのではないかと思う。

＜町長＞

次に社会体育グループについてご質問・ご意見等お願いします。

＜宗像委員＞

町としてスポーツ団体に協力したりサポートしたりする内容で、色々な機会が提供されていると思った。スポーツに馴染みのない人に機会を提供すると書いてはあるが、特にそこに対して力を入れるという風に読み取れなかった。ゼロの人を動かすようなところに力を入れてはどうか。また、特定の競技に対して、もう少し尖ってもいいのではないか。マラソンや駅伝などがあると思うが、例えば柔道の大会が三春で行われていて、田村高校も全国区になっている。町の方針として、この競技を押すのだという強いものがあるといいのではないか。

＜生涯学習課長＞

これまでのスポーツ事業が、すでにスポーツをしている人向けに施策を展開してきたものであることは否めない。教育大綱の中でも明確に打ち出しているというほど強くはないかもしれないが、町民参加型のスポーツ大会・教室の開催の中で、スポーツに馴染みのない人についても記載があり、スポーツを始めるきっかけを作っていきたいという考えで記載をしたところである。また、特定の競技に対して、三春町では比較的、駅伝や柔道などについて町として力を入れているように感じられる部分があると思っている。これからも継続して実施していきたいと思うが、それ以外の競技との公平性にも十分配慮しながら、スポーツ活動に親しんでいただきたいと考えている。競技として力を入れていく部分と様々なスポーツ活動に参加したい方の窓口としての部分を両輪のように押さえながら、施策を展開していきたいことから、教育大綱の中では記載をさせていただいた。

＜宗像委員＞

スポーツを始めていない人を増やすという意気込みがあるのであれば、スポーツ大会・教室参加人数の目標値を増やすべきではないか。また、競技について公平感を出しすぎると、おもしろいものができないのではないかと思う。

＜生涯学習課長＞

目標値が大きく出ていないというご指摘だと思う。考え方としては、この数値が上がっていくようにという思考の中で活動していきたい。数値については改めて考えたい。また、すべての競技を平等には取り上げることはできないので、その中でもスポーツ器具、場所の提供等で可能な範囲で整備しながらやっていきたい。一方で駅伝や柔道などについては、これまでどおり、力を入れていきたい。

＜町長＞

次に歴史民俗資料館についてご質問・ご意見等お願いします。

＜宮田委員＞

歴史民俗資料館を改めて見学したが、古い建物でありながら清潔で、展示物にほこりもなく、文化財を大切に思って適切に管理されていると感じた。とても価値があることなのだが、割に町民にその意識が伝わっていないのがもったいない。特に他団体との連携は不可欠だと思う。SDGｓ17 のパートナーシップは、単独でできることではないので、全ての項目に入れてもいいと思う。どの活動にも意識していくべきだと思う。文化財を保存・継承する団体への支援について、町単独の活動ではなく、それを保存しようと努める団体も支援するという姿勢がすばらしいと思う。

＜町長＞

SDGｓのアイコンの使い方ということで、パートナーシップということであれば、全てに入るべきではないかとうご意見でしたが、事務局から説明お願いします。

＜歴史民俗資料館長＞

ご指摘のとおり、伝わらないとよく言われる。町外への広報以外にも地元の方たちにも、たくさんの重要な文化財、歴史があるという広報を色々な企画の中でしていきたい。パートナーシップについては、文化財を保存している団体、つなげる団体、地区、学校等と協力していけるような体制を作っていきたい。できるだけ各種団体と協力をしていきながら、文化財保護を進めることで地域の方々に文化財について理解していただきたいと考えている。文化財保護審議会委員から文化財について町民の皆さんに意見を聞きながら保護や利活用に努めていきたいという意見があり、３月１３日に三春城址の保護・活用についての話し合いをした。こういった活動も今後続けていきたい。

＜町長＞

次に町民図書館についてご質問・ご意見等お願いします。

＜宗像委員＞

コロナ禍の状況でどのように今後運営していくのか。一番大変なのだろうと思った。本来であれば、「学び、つながり、未来を拓く」が体感しやすい施設だと思う。それがうまくできなくなっている状況にある。今月は東日本大震災の特設コーナーを設置する等されているが、インターネット上で何かするとか、できるのかどうか分からないが、コロナについて心配をしている。

＜町民図書館長＞

コロナ対策として、手指の消毒、マスクの着用等の対応をしている。県立図書館等、本自体を消毒する取り組みをしている図書館もあるが、まずは来館者には手指の消毒をしっかりしていただいく。また、館内の換気を随時行い、施設の消毒を１日２回している。こういった対策

を続けていきたい。

＜町長＞

次に児童生活センターについてご質問・ご意見等お願いします。

＜太田委員＞

少子化の中で、子どもを安心して産み育てられる環境が必要である。三春町は子育てしやすい町になっているのではないかと思う。早くから児童クラブ、まほらっこ教室を実施しているということは、評価できることだと思う。運営が利用者にとってより良いものでないと活性化はできない。放課後子ども総合プラン推進事業運営委員会を立ち上げて、委員の選定が地域住民と学校関係者、PTA 関係者であり、そういう人たちが話し合いをすることは事業のためにも素晴らしいことだと思う。出された意見はできることと、できないことがあると思うが、善処しながら子どもたちの居場所づくりに尽力していってほしい。

＜町長＞

運営委員会の話しが出たが、事務局から説明お願いします。

＜児童生活センター所長＞

年３回運営委員会を開催しているが、今後も維持していきたい。また、委員会の中で児童クラブとまほらっこ教室を視察したいという意見もあり、年１回の現地視察を行い、現状をより深く理解していただき、三春町で実施していける放課後対策について建設的な意見をいただき、より良い事業運営を目指していきたい。

＜町長＞

全体をとおしてご意見ありませんか。ないようでしたら、承認ということでよろしいでしょうか。それでは承認とさせていただきます。次に意見交換に移りたいと思います。

＜渡辺委員＞

技術革新が目まぐるしい時代の中で、時代の流れを捉えて情報をいかに子どもたちに教えながら、何を勉強しなければいけないかを自覚させていくのが必要ではないかと感じている。

＜教育長＞

技術はしっかりと様々なところでリテラシーを身に着けつつ、根っこにある三春で本当に大事にしなければならないことはしっかりと押さえつつ、この両面で常に子どもたちに相対していきたいと考えている。

＜宗像委員＞

テレビで見たのだが、自治体で地域のかるたを作って大会を開催していた。小さな子どももかるたを暗記している。かるたには地域のことが散りばめられており、地域に対する知識が身に付き、素晴らしいと思う。こういったものがあるといいなと思った。

＜宮田委員＞

ライスレイクの家が町の直営になるということだが、今後、ライスレイクの家が意味づけのないものになっては、もったいない。多文化を身近に感じられる場所であるので、利用の仕方について、いろいろな立場の方が気軽に意見の持ち寄りができるとよいと思う。

＜生涯学習課長＞

ライスレイクの家に関しては、これまでの施設の位置付け、意義付けを変更はしてはおらず、それを継承しながら、さらに多様な活用の仕方をするという考え方で、条例を議会３月会議でかけさせていただいた。具体的な中身については、規則を制定して運営や管理の仕方を定めたいと考えている。当座は国際交流の場や国際交流の歴史を伝える場所としての活用や、町民のみなさんが自由に様々な活動ができるような場所、観光等で訪れた方が休憩をされるような場所など、多様な展開ができる施設として位置付けている。色々な方からのご意見をということであるが、そういうことも含めて検討させていいただきたい。

＜太田委員＞

震災、コロナ禍など、これからの世の中は今までとはガラッと変わる。特に教育界でも GIGA スクール構想など大きく変わることが予想されるが、教育の中心は人間である。施策の真ん中に人ありきである。人づくりのために ICT を使っていくということを念頭に置いておきたい。新たな福島県総合計画案のキーワードの中に「ご縁」が入っていることが素晴らしい。信頼関係がなければなにもできないことを念頭に入れながら施策を進めていきたい。大綱の中には SDGs すべてが入っているが、三春にいいことは、県にも日本にも、世界にも、地球にもいいことである。そういう意識で遂行することで SDG s が達成できると思う。ゆっくりでいいと思う。よりよい三春づくりを進めていきたい。

＜教育長＞

「ご縁」の話しから話題を提供させていただきたい。まほらミュージックプロジェクトを入れさせていただいた。テーマは、音楽の力で三春を豊かに。20 代の若者からなる音楽ユニットを招いて、小学校の音楽鑑賞教室、町民向けのコンサート、新庁舎でのロビーコンサート、三春小学校での弦楽の指導などを予定している。また、田村高校生・中学校生徒とプロのトランペッターを合わせたコンサートなど、音楽の豊かさを感じる事業を生涯学習課主導で立ち上げたい。町長がこれからの三春、高齢化や財政縮減が進んでいく中で生活の質を落とさない町にするための方法について、各所でお話をして投げかけていただいている。教育委員会の立場でできることを考え、少しずつ形にしながら、生活の質をしっかり上げていく、みんな自信をもって三春町が好きだと言ってもらえるような町にするための様々な施策を実現させていきたいと考えて、この大綱にまとめたところである。これをベースに４月からスタートさせてい

ただくが、年１回の振り返りの場を持たせていただきたいと思うので、様々なご意見をいただきながら、施策を提案できるように邁進して参りたい。

＜町長＞

各委員さん、ありがとうございました。大綱は作って終わりではない。次回には様々なエピソードを話しながら各委員さんの感想を伺いたい。三春の歴史について、首長の集まりで三春は歴史があっていいねと言われる。言い方を変えると本物の歴史があるということだと思う。先日、お城山の地形には意味があるということをフォーラムで聞いて、こういったことをきちんと次世代に繋げていかないと先人たちの財産を食いつぶしてしまうと思った。また、最近は災害が続いている。三春は特に地震に強い。もしかすると先人たちは知っていたのかもしれないと思うことがしばしばある。そういったことを次代に繋げていきたい。もう１点、デジタルとリアルのバランスをきちんととっていかないといけない。確かにデジタルは生産性が高くアクセスもよくて便利この上ない。当然、危険性も教えなければいけないが、一方でリアルの部分、五感を研ぎ澄ませて体験しなければいけないこともある。いわゆる人情や親子の情など古代から変わらないわけで、その辺りがバランスよく育ってくれればいいなと思いながら、みなさんのお話を聞かせていただいた。本当にありがとうございます。教育大綱を活用しよい町づくりに努めていきたい。